

Plan
(計画)

平成25年度予算
主な取組



平成25年2月
奈良県

目 次

I 平成25年度予算編成の基本方針	1
II 政策課題ごとの主な取組	3
<u>経済活性化</u>	3
地域産業の支援・創出	
観光の振興	
県内消費の拡大	
雇用対策の推進	
農林業の振興	
<u>くらしの向上</u>	8
健康づくりの推進	
医療の充実	
福祉の充実	
こども・女性支援の充実	
学びの支援	
文化の振興、スポーツの振興	
安全・安心の確保	
景観・環境の保全	
くらしやすいまちづくり	
<u>紀伊半島大水害からの復旧・復興</u>	17
<u>中南和・東部地域の振興</u>	18
<u>効率的・効果的な基盤整備</u>	19
<u>協働の推進及び市町村の支援</u>	
<u>組織力の向上と財政の健全化</u>	

| 平成25年度予算編成の基本方針

1. 本県経済の持続的活性化に向けた取組の推進

昭和40年から60年代にかけて、大阪のベッドタウンとして本県の人口増加率は全国平均を大幅に上回って推移しました。

人口急増に道路整備や病院建設などが追いつかず、現在も道路改良率は全国第44位、人口あたり病床数も全国平均を下回っており、未だにその遅れは取り戻せてはいません。

また、本県の自主財源の構造を見ると、個人県民税が税収の約4割を占め、人口一人あたり税収は全国第10位である一方、法人関係税の人口一人あたり税収は全国第47位、地方消費税額は全国第46位と低迷しています。県内に企業が少なく、消費が県外に流出しているからです。

今後、本県は急速に人口減少、高齢化が進むと予想されています。それにあわせ、頼みの個人県民税の減少も避けられません。

今こそ、ベッドタウンから脱却し、県内雇用と県内消費を増加させ、地域経済の自立を図っていく必要があります。県内での投資を喚起し、雇用を創出する取組が重要です。

そのため、地域産業の支援や企業が立地しやすい環境整備に取り組むとともに、新産業の創出に向けた研究開発を進めます。また、観光地としての魅力を一層高め、宿泊客の増加につなげていきます。さらに医療・福祉の充実により新たな雇用を創出します。

地域の自立を図り、くらしやすい奈良を創るために、県が率先して活動し原動力となって、これらの取組を強力に進めてまいります。

2. 平成25年度予算編成の基本的な考え方

左記1. の考え方の下、平成25年度予算案は以下の観点を基本として編成しました。

1. 地域経済の活性化に資するため、引き続き企業立地などに取り組むほか、奈良公園及び周辺の魅力向上や、新県立奈良病院の整備、医科大学教育・研究部門の移転整備など、これまで積み重ねてきた議論を実現・実行に移す予算とする。
2. また、県勢発展の原動力として、奈良の伝統文化が培ってきた叡智と活力である「やまとぢから」をさらに活用し、「奈良がもっと良くなるように」との思いを込めて創意工夫を重ねた予算とする。
3. 財源としては、国の緊急経済対策にかかる補正予算を最大限活用することとし、平成25年度当初予算と24年度補正予算を一体として編成する。

II 政策課題ごとの主な取組

経済活性化 [地域産業の支援・創出]

○少子高齢社会の到来を踏まえ、「Living Science」をキーワードとして、例えば医療・介護分野でのＩＣＴ（情報通信技術）などの、科学技術を活用した課題解決型の新しい産業の創出を目指します。

【主な取組】

- ・新少子高齢社会におけるくらしの中の課題を解決する新産業（Living Science）の創出に向けた研究開発を推進[31]
- ・④漢方プロジェクトの推進[20]
- ・⑤制度融資を活用して起業する離職者等を支援（保証料補助、代位弁済に係る損失補償）
- ・ビジネスプランを公募し、優れた事業計画による起業を支援[6]



ビジコン奈良2012

○経済効果の高い分野に重点をおいた戦略的な誘致活動を引き続き展開するとともに、京奈和自動車道をはじめとする幹線道路のインフラ整備等により、企業が立地しやすい環境整備に努めるなど、企業誘致の推進を図ります。

【主な取組】

- ・企業立地促進補助金[900]
- ・⑥情報通信業立地促進補助金の創設等[24]
- ・東京・大阪でのトップセミナーの開催等により戦略的な企業誘致を展開[24]
- ・「大和まほろばスマートＩＣ（西名阪自動車道）」の整備[320]

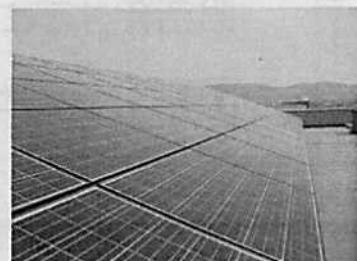


大和まほろばスマートＩＣ

○「奈良県エネルギー・ビジョン」の策定を踏まえ、多様な再生可能エネルギーの導入や緊急時のエネルギー対策に取り組むとともに、節電の新たなスタイルの提案を目指します。

【主な取組】

- ・⑦「奈良県エネルギー・ビジョン」の推進（製造業者の省エネ・節電改修支援、小水力発電・地熱発電導入支援、ＬＰガス非常用発電の導入等）[45]
- ・家庭用太陽光発電設備の普及に向けた助成の拡大（④1,000件 → ⑤1,500件）[120]
- ・⑧木質バイオマスの利用拡大に向けた実証実験の実施[29]



太陽光発電

経済活性化 [観光の振興]

○奈良の豊富な観光素材を最大限活用し、「記紀・万葉プロジェクト」などの取組により周遊型観光地としての魅力を一層高めるとともに、オフシーズン向け旅行商品の造成など、通年型観光地に向けた施策を推進します。

【主な取組】

- ・記紀・万葉プロジェクトの推進（新古事記朗唱大会の開催、新「古事記かるた」の制作、シンポジウムの開催、パネル展の実施、新古事記出版大賞の表彰式及び記念講演会の実施、「なら記紀・万葉名所図会－古事記人物編」の制作等）[97]
- ・オフシーズン向け旅行商品の造成、コンベンション誘致の推進等（首都圏を対象にした冬の奈良への誘客等）[110]

○「JAならけんまほろばキッチン」内の観光案内所や首都圏における情報発信を充実するなど、奈良の魅力を効果的に発信し、誘客を促進します。

【主な取組】

- ・新耳成観光案内所の運営[16]
- ・新首都圏における通年での情報発信[22]

○海外プロモーションや国際会議の誘致などを通して外国人観光客の誘致に努めるとともに、東アジアなどとの国際交流の推進や、在住外国人（留学生を含む）を支援する取組を強化します。

【主な取組】

- ・新「外国人支援センター」の設置[4]
- ・新外国人留学生を奈良の観光サポーターとして養成[1]
- ・中国陝西省・韓国忠清南道との友好交流推進[15]
- ・東アジア地方政府会合の開催[142]



東アジア地方政府会合

○観光客に奈良の魅力をアピールするため、奈良公園や平城宮跡、県営プール跡地を一体的に整備し、沿道の空間に賑わいを創出する「大宮通りプロジェクト」を推進します。

【主な取組】

- ・奈良公園基本戦略に基づく整備とぎわいづくり（新鹿の保護施設（鹿苑）整備、県庁東～大仏殿交差点間の歩道整備、新全国フードグランプリ開催等）[2, 690]
- ・平城宮跡歴史公園の整備とぎわいづくり[1, 490]
- ・ホテルを核とする賑わいと交流の拠点整備の推進[96]
- ・大宮通りの環境整備（新鹿ゾーン対策、修景等）[873]

（一部再掲）



※〔 〕はH25当初予算とH24.2補正予算の合計額、単位：百万円

経済活性化 [県内消費の拡大]

○県外に流出している消費を県内に引き戻すため、消費者に支持される魅力ある店舗づくりに取り組むとともに、県産品の贈り物や土産物の充実、商店街の活性化などを進めます。

【主な取組】

- ・自社のブランド化に取り組む事業者の商品開発・販路開拓への支援 [6]
- ・贈り物商品の開発・発掘・発信等 [7]
- ・市町村、商工会議所等が取り組む地域版プレミアム商品券発行への支援 [8]



奈良ブランドの発信
「TEIBAN展」(東京・銀座)



「奈良の贈り物」認定商品

○本県の持つ様々な利点や市場の有望性のPRを行うなど、良質なホテルの誘致を進めるとともに、奈良の特性を活かしたB&B等小規模宿泊施設の開業促進や施設・サービス等の充実により、宿泊力の強化を図ります。

【主な取組】

- ・ホテルを核とする賑わいと交流の拠点整備の推進 [96] (再掲)
- ・④県内大学生の力を活用した小規模宿泊施設のおもてなしの充実 [7]
- ・④個人旅行に対応したゲストハウス等への宿泊促進 [4]



ホテルを核とする賑わいと交流の拠点
(コンセプト・イメージ)



町家を活用した宿泊施設